情報によって動く社会を支える力となる仕事

MESSAGE

「情報社会に新たな“信頼”を築く」

情報セキュリティ大学院大学
学長
田中英彦氏

■セキュリティ業界の現状

情報を巡る事件として、例えば不正資金移動があります。ネットバンキングで自分は誰々に送ったつもりが、違う人に送られている。実はその人のパソコンにウィルスのような変なプログラムが入っていて、情報を書き換えているわけです。また昨今大きな問題となっている情報漏洩。企業の重要な情報・資料がいつの間にか持ち出され、別の会社に渡っている。それはネット経由のこともありますが、人が持ち出すこともあります。

とにかく今はどんな企業も情報に基づいて仕事していて、企業と企業の間には膨大な量の情報が溢れています。また企業や個人だけではなく、国と国の戦争のような問題も起こっています。他国の行動を妨害するために、ネットワーク経由で大量のメッセージ攻撃があったりするわけです。そういう意味では、サイバー攻撃は21世紀最大の脅威といわれています。このように情報に関する事件は多岐にわたり規模も大きくなっていますが、日本では非常に人材が足りていない状況です。

2020年には東京オリンピックがあります。攻撃しようとする人にとっては、大きなチャンスといえる。オリンピックが阻害されないよう、情報セキュリティ人材の育成が急務なのです。

東京大学大学院工学系研究科電気工学専門課程修了。工学博士。東京大学にて計算機アーキテクチャ、並列処理、人工知能、分散処理、メディア処理などの教育・研究に従事。東京大学大学院情報理工学系研究科長を経て、2004年4月情報セキュリティ大学院大学情報セキュリティ研究科長・教授。2012年4月より同学長。情報処理学会功績賞、人工知能学会論文賞、ACM SIGGRAPH'99 Impact Paper Award、人工知能学会功績賞、東京都科学技術功労者表彰、経済産業大臣表彰など受賞。日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)会長、IEEE Life Fellow、情報処理学会名誉員、東京大学名誉教授。

■セキュリティ人材に求められること

ネットワークや情報システムを使った攻撃に対抗していくことなので、情報系の知識はもちろん必要です。ただセキュリティに対応する全ての人たちに、高度な技術が必要ということではありません。犯罪を犯すのは人ですから、人を理解し人に対応・マネジメントする能力や法律に関する知識に優れた人材も必要です。

これからの企業は、ますますネットベースで仕事が動いていきます。昔は仕事のために、人と人の間に信頼関係を構築していました。ところが、最近、人と人の間や機械の間にもネットワークが入って来たために、信頼が怪しくなってきたのです。だからスムースに活動するために新たな信頼を築く。それが情報セキュリティの重大な役目だと思います。社会の基盤が、それによって支えられているのです。今後の社会の基盤、信頼を作り上げていく役目だという仕事に、ぜひチャレンジして欲しいですね。

HIDEHIKO TANAKA